

若い会長が牽引する
防災・防犯のモデル地区



木曾地区町内会・自治会連合会

会長 宮本 聖士さん

副会長 石川 和美さん / 紅林 里志さん

The Machibito — Chikiri Ikinu

阪神・淡路大震災から21年、東日本大震災から5年が経った。2つの大きな震災でクローズアップされるようになった町内会・自治会の存在。町内会・自治会が機能しているかどうかは救急や復旧に影響していたことも報告されている。勿論、古来から形成されてきたこのコミュニティが様々な問題を抱えていることも事実だ。町田市の町内会・自治会は現在、全部で308団体、加入世帯率は約55%。市内を10地区に分け、町内会・自治会連合会という組織で束ねている。今回は木曾地区町内会・自治会連合会の取り組みを紹介する。

は古くから伝わる歴史行事の伝承も含め、どんど焼きや盆踊りなどの季節行事、複数の地区と合同で行う防災訓練や見守り、防犯パトロールなどが主だ。

「町田市のほぼ真ん中にある木曾は平坦な地形が多いので、万が一の時も比較的被害は少ない地区だと思います。ただ、3・11や阪神大震災以降に若い人を中心に災害への意識がとて高くなり、防災に力を入れています。そう語るののは会長の宮本さんだ。

防 意識の高まりに併せ、避難所の運営マニュアルも独自で作成した。施設ごとの特徴や利用の仕方、ルール、防災グッズの取扱

いなどが細かく記載されている。防犯活動も、民生委員や近隣の小中高と連携を取りながら組織だったパトロールを町田の中でいち早く始めたエリア。警察の防犯強化キャンペーン時には、都県境パトロールのモデル地区となったこともある。ユニフォームの着用や活動日誌の徹底化などを行っており、防災と併せて高いリスクマネージメント意識がうかがわれる。

他 の町内会・自治会と同様に、会長や役員の手不足という課題もある。地元で古くから住んでいる人か、自営もしくは定年退職後に時間がある人が仕方なく、という場合が多いが、会長

の宮本聖士さんは、現役世代で会長職をこなす稀少な存在だ。防災や防犯に積極的に取り組むリーダー的存在でもあり、そんな会長を支える副会長の紅林さんは、木曾に引越してから約20年、その前は高ヶ坂でも町内会長を務めたベテランだ。一方、地元生まれ育った石川さんは木曾上横町町内会の会長になって4年だが、彼もまた副会長職を長年務めてきた実績がある。「昔は会長を名誉職として引き受けてくれたが、最近は雇用延長等もあり、町内会の役割に目を向けてくれる人が少なくなった。三人とも町内会の存続を危惧している。

一方、昨年設立した地区協議会でも主な活動は防災対策だ。昨年暮れには50名以上の会員が参加して、簡易トイレや簡易間仕切りテントの組み立て、浄水器など様々な防災グッズの使用体験を行った。「実際に災害が起きてからでは遅いので、日頃から準備しておくことが大事。これからは防災には引き続き力を入れて、万が一に備えていきたい。」行動力のある若い会長の頼もしい言葉が印象的だった。

歴 史ある街・木曾地区は、昭和60年に忠生地区から分割した町内会・自治会連合会。管内には17の町内会・自治会があり、5817の世帯が加入している（27年4月現在）。加入世帯の半数は集合住宅で、高齢化が深刻な反面、新興住宅地に引越してきた転入者の加入も多く、新旧の住民が交流を深めながら町内会・自治会を運営できている。

町内会・自治会としての活動



A



B

A 正月の伝統行事「どんど焼き」 B 夏休みに開催される「盆踊り大会」

木曾地区町内会・自治会連合会
会長の宮本聖士さん



副会長の紅林里志さんは、
木曾親和会の会長も務めている



木曾上横町町内会の会長も務める
副会長の石川和美さん



木曾境川小学校避難所
運営マニュアル

加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262